

まちづくりの目標（都市像）について

- 1 まちづくりの目標（都市像）検討の視点（求められるもの）
まちづくりの方向性やまちの将来の姿を示すもので、まちづくりの意志を最も端的かつ効果的に表すもの。
 - (1) 地域内外への両面性を配慮した都市像であること。
 - (2) 地域づくりの可能性と夢を育む都市像であること。
 - (3) 分かりやすさとインパクトのある都市像であること。
 - (4) 地域性、独自性豊かな都市像であること。
- 2 審議会での意見（概要）
 - ・まちづくりは人づくり、人を育てることが大切
 - ・地球環境保全に取り組む姿勢、例えばCO₂削減といった視点が大切
 - ・共存、共生が大事な言葉。人間は自然と共にあることが市にとって大切
 - ・どこにもない自然、田舎らしさ、都会にはない長野らしい人の優しさを自然を含めて守っていくという言葉が必要
 - ・明るい、元気なという活性化するポイントも大切
- 3 まちづくりの目標（都市像）案

（案 1）

～善光寺平に結ばれる～
まちと自然が共生する うるおい+交流都市“ながの”

（趣 旨）

善光寺平に結ばれる

- ・「善光寺平」は県歌信濃の国にも謳われ、長野地域の結びつきと豊かさを端的に表す象徴的な言葉
- ・人と人が結ばれる、訪れる人が“ながの”に結ばれる、更に産業やスポーツ、教育、交通網など多くの人や事柄が、ここ“ながの”に結ばれることを表現した。

まちと自然が共生する

- ・長野市は、多くの人々が活動する都市である一方、田畑や周囲の豊かな自然と貴重な生態系を抱えている。
- ・この素晴らしい環境をいつまでも守りながら、地球環境に思い至る感性を

育み、自然と人とまちが近い“ながの”の特徴的な魅力が保てるよう、まちと自然の共生を大切にしたい。

うるおい+交流都市“ながの”

- ・ 自然の豊かさ、人の優しさ、安全で穏やかな暮らしなど“ながの”の良さは、しっとりとした「うるおい」の中に表現した。
- ・ 県都、地方拠点都市、長野圏域の中心都市として、人や産業が集まり活力に満ちたまちであり続けたい。
- ・ 「うるおい」ある地で豊かに暮らし、住む人と訪れる人が新たな「交流」を刻む。大切なものを守りながら、魅力と活力に満ちた“ながの”を、ここに結ばれる全ての人と共に創っていききたい。

(案2)

悠久の時を超え 人と自然を育む 共生・交流都市“ながの”

(趣旨)

悠久の時を超え

- ・ 長野市は、四季折々の大自然の恩恵を受け、善光寺の門前町として繁栄
- ・ 多くの観光資源、五輪開催の経験を有する。
- ・ これら太古の昔から現代に至る悠久の自然・歴史・文化を誇りとして、未来へ躍動するイメージを表現した。

人と自然を育む

- ・ 未来の長野市の地域・社会・まちを支えていく根幹は「人」、「市民」
- ・ 長野を訪れる人や市民にとって魅力ある豊かな自然環境をいつまでも大切に守ることは、都市の魅力を増すことにつながる。
- ・ 人と自然を守り育てることにより、後世へ継承し、発展し続けたい。

共生・交流都市

- ・ 県都、中核市、長野圏域の中心都市として、長野の自然・風土・歴史・文化・スポーツをいかしながら、産業・観光の活性化、人・知識・物産などの多種多様な交流により、持続的発展を目指す。
- ・ 市民・地域の個性・価値を尊重し、それらを共有し、人と人との思いやりの心でつながり合い共に生きていく。豊かな自然と共生しながら、新たな魅力を創造する“ながの”を目指す。

(案3)

豊かな自然との共生 華やかな都市文化の発展 私らしく歩むまち “ながの”

(趣旨)

豊かな自然との共生

- ・ 豊かな自然は、後世へいつまでも継承したい貴重な財産
- ・ 私たち市民はこの大地の恵とともに生き、生かされており、自然との共生は、現代を生きる市民の責務である。

華やかな都市文化の発展

- ・ 歴史・文化など長野の魅力をいかしながら、県都、中核市として、産業、観光、文化、スポーツなど特色ある都市文化の活性化を目指す。
- ・ それぞれの地域の個性を育み、活力のある元気で華やかなまちにしたい。

私らしく歩むまち

- ・ これまでの経済成長に支えられ走り続けてきたまちの姿から、もう一度自分自身を見つめ、一步ずつ着実に発展したい。
- ・ スローライフだけでなく、スローもファーストも様々な選択枠のあるまちにしたい。